

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(看護学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
看護	2	前期	基礎看護学援助論Ⅲ	2	60	西上 あゆみ、 長井 雅代、 松本 晃子、 中野 玲子	病院看護師として13年間勤務し、当該科目で教授している吸引、酸素療法、導尿、検査介助、点滴、採血など実務経験を有している。授業では、実施時のコツや説明の仕方などに関する具体例を経験を交えて教えている。
看護	2	前期	老年看護学概論	2	30	本多 容子、 米澤 知恵、 山田 由紀	看護臨床現場での実務経験のある教員が、その経験を活かして、高齢者看護の役割及び高齢者を取り巻く現状や課題について考える授業を実施している。
看護	2	前期	母性看護学概論	2	30	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した経験と「こんにちは赤ちゃん事業」の家庭訪問2年の経験を活かし、現在の社会問題や環境に即した、女性の一生の健康について広い視野を持ち講義を行っている。
看護	2	前期	在宅看護学概論	2	30	堀 智子	本科目は在宅看護学に関連の深い介護支援専門員の職歴のあり、厚生労働省認定看護教員養成講習会(在宅看護論)修了している教員が担当しており、地域で疾病や障害を持ちつつも生活する人々やその家族の健康課題や生活課題への看護介入について実践的に学べる
看護	2	後期	基礎看護学活動論Ⅰ	2	30	西上 あゆみ、 長井 雅代、 松本 晃子、 中野 玲子	病院看護師として13年間勤務し、当該科目で教授しているフィジカルアセスメントや看護課程の実務経験を有している。授業では、看護問題の立て方や観察の仕方などに関する具体例を経験を交えて教えている。
看護	2	後期	老年看護学援助論	1	30	米澤 知恵、 本多 容子	看護臨床現場での実務経験のある教員が、その経験を活かして、高齢者が治療を受ける過程に必要な看護援助の知識と技術について考える授業を実施している。
看護	2	後期	母性看護学援助論	1	30	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した。(助産師としての分娩介助、NICUの新生児看護)現在、産婦人科クリニックでの臨床勤務の兼業3年している。それらを生かし、シミュレーションなどを取り入れ、より実践的な周産期の看護実践指導に役立っている。
看護	3	前期	成人看護学演習Ⅰ	1	30	林 周子、 齋野 貴史	急性期での臨床経験を有する教員が、臨地での経験を活用し、より実践的な助言や指導を行う。
看護	3	前期	母性看護学活動論	1	30	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した。(助産師としての分娩介助、NICUの新生児看護)現在、産婦人科クリニックでの臨床勤務の兼業3年している。それらを生かし、シミュレーションなどを取り入れ、より実践的な周産期の看護実践指導に役立っている。
看護	3	前期	精神看護学活動論	2	60	河野 由理、 藤本 智美	教員の幅広い臨地における経験をもとに授業の内容を構成し、実践に活かせる知識および技術の修得を目指す。
看護	3	前期	在宅看護学活動論	1	30	堀 智子	本科目の主担当の教員は介護支援専門員としてケアマネジメント業務に携わっていた実務経験と厚生労働省認定看護教員養成講習会(在宅看護論)修了での在宅看護論教授過程の知識および技術を活かして、ケアマネジメントと在宅看護過程の習得を目指す。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(看護学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
看護	3	前期	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2	30	佐藤 文子、 南 朗子、 河端 三恵子、 波多野 浩道	保健師の実務経験を活かし、各分野における保健活動の実際について、事例を用いながら指導していく。
看護	3	前期	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	2	30	佐藤 文子、 南 朗子、 河端 三恵子、 波多野 浩道	保健師の実務経験を活かし、各分野における保健活動の実際について、事例を用いながら指導していく。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(理学療法学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
理学	1	前期	理学療法学概論	1	30	寺田 茂	医療機関で34年間、臨床で理学療法士としてリハビリテーション業務に従事。その間に部門管理者としての組織マネジメントや一部で病院経営の戦略委員としてもかかわってきた。その経験を活かし、「理学療法学概論」では理学療法の対象と治療手段について実際の患者を例に挙げてアプローチやリスク管理などの注意点を教授する。また、部門管理や組織としての活動、理学療法士として必要な資質についても経験を踏まえて授業を行う。
理学	1	後期	体表解剖学演習	1	30	何川 渉、 梶本 浩之	医療・介護現場における臨床経験がある教員が、その経験を活かして講義を行う。
理学	2	前期	運動療法学	2	30	森田 恵美子	臨床での経験を活かし、理学療法の最も大きな柱として位置づけられている運動療法について、臨床の場でよく用いられる関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動等の基礎的知識を習得することを目的に実施している。臨床の場で、対象者に対して適切な運動療法を提供するためには、解剖学、生理学、運動学の知識が非常に重要であることを、学生が意識づけできるよう授業を展開している。
理学	2	後期	臨床推論	1	30	堀 寛史	総合病院にて4年、クリニックにて2年の理学療法士としての常勤と訪問看護ステーションでの14年、整形外科クリニックでの14年の非常勤での臨床経験を有する。その経験を生かして、学生に対して臨床推論を論理学と経験に基づいて説明することができる。
理学	2	後期	義肢学	2	30	前田 智香子	さまざまな医療福祉施設において常勤理学療法士・非常勤理学療法士として勤務し、切断のリハビリテーション、整形疾患への装具療法、脳血管障害への装具療法、脊髄損傷への装具療法を実践してきた教員が、その経験を通して、学生が臨床において理学療法評価を基に義肢装具療法を展開できるセラピストになるよう本物の義肢・装具に触れさせつつ、CKCにおける運動連鎖を理解することを重要視しつつ講義する。
理学	2	後期	日常生活活動学	2	30	平山 朋子	実務経験として、病院勤務の際に脳血管疾患、運動器疾患、神経筋疾患(パーキンソン病、ALS、脊髄損傷などの疾患)に対する日常生活活動の理学療法評価を実施(FIMなど)していた。また、日常生活活動の運動療法、日常生活活動の指導も実施していた。
理学	3	前期	運動器理学療法学	2	30	熊田 仁	平成2年免許取得。その後大学病院にて18年間勤務。その間、整形外科疾患の術後の管理から運動療法まで数多くの症例を経験してきている。また、クリニック等においても保存治療に対する運動療法に多く携わっていることから、それらの経験を踏まえて解剖学を基本にした考え方を治療に結びつけるよう指導する。
理学	3	前期	脳血管理学療法学	2	30	山科 吉弘	ICUおよび脳卒中センターでの急性期理学療法、ならびにリハビリテーション病院での回復期・維持期理学療法の経験をもとに脳血管疾患における一般的な運動療法の概念について説明する。そして、対象者への理学療法プログラム立案までのプロセスを理解することを目指す。
理学	3	前期	脳血管理学療法学実習	1	45	山科 吉弘、 阪上 奈巳	ICUおよび脳卒中センターでの急性期理学療法、ならびにリハビリテーション病院での回復期・維持期理学療法の経験をもとに脳血管疾患における一般的な運動療法の概念について実習する。そして、対象者への理学療法プログラム立案までのプロセスおよび治療までの流れをペーパーペイシエントを使用し経験する。
理学	3	前期	神経筋理学療法学	2	30	玉地 雅浩	担当科目で取り上げる疾患は、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、脊髄損傷、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群である。本学に勤務する前は、大学病院や急性期の総合病院に10年以上勤務しており、これらの疾患を有する患者は全て理学療法を実施した。この経験を活かして、学生に対して、障害像がイメージできるような授業内容を提示できている。また現在も関連病院の藍野病院で、パーキンソン病の患者を毎週担当しているため、実務経験は万全である。
理学	3	前期	義肢装具学演習	1	30	前田 智香子	さまざまな医療福祉施設において常勤理学療法士・非常勤理学療法士として勤務し、切断のリハビリテーション、整形疾患への装具療法、脳血管障害への装具療法、脊髄損傷への装具療法を実践してきた教員が、その経験を通して、学生が臨床において義肢装具療法を展開できるセラピストになるよう本物の義肢・装具を見せることを重要視しつつ講義する。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(理学療法学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
理学	3	前期	小児理学療法学	2	30	阪上 奈巳	支援学校や就学前の発達に何らかの支障がある子供たちが通う療育施設等で、主に運動発達機能面での支援を行っており、このような経験を基に、対象児が抱える問題やその対応について、実例をもとに紹介している。
理学	3	前期	地域理学療法学	2	30	平山 朋子	実務経験として、病院勤務の際に在宅医療、訪問リハビリテーション、住宅改修の支援、通所デイサービスなど、地域理学療法に関する業務を行っていたので、この授業においても地域医療における理学療法士の役割や仕事について講義を行う。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(作業療法学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
作業	1	前期	基礎作業学	1	30	山根 伸吾	臨床において、作業に焦点を当てた作業療法介入を行ってきた。単なる工程分析・活動分析ではなく、作業分析を行うことにより、クライアント中心の作業療法を提供できることを実感している。臨床実践での経験を、理論や既存の分析方法と結びつけることにより、実践と学問の関係性を踏まえた思考過程を学生に伝えることができる。
作業	1	後期	作業療法評価学総論	1	30	津田 勇人	作業療法士免許取得後、国立大学医学部附属病院・公立病院・地域保健事業・訪問リハビリテーション事業所等で身体障害領域の作業療法を20年以上実施してきた臨床経験をいかし、作業療法分野で実施している評価の概要をわかりやすく解説する。
作業	2	前期	発達過程評価学演習	2	60	尾藤 祥子、 高畑 脩平、 花家 竜三	脳性麻痺をはじめとする脳障害を主に対象とする病院での経験や、保健センターでの乳幼児検診、相談事業、慢性疾患児の訪問事業などを通して、心身機能への評価治療、活動の評価に加え、保護者の育児環境などの背景を含めた環境因子を関連させて評価することを身につけている。それらの経験を生かし、発達領域の評価についてより医療専門職としての技能を具体的に教えることができる。
作業	2	前期	精神心理評価学演習	2	60	白井 雅子、 真下いずみ	精神科病院で勤務した経験を活かし、指導していく。
作業	2	前期	作業療法治療学総論	1	30	山根 伸吾	臨床において、作業に焦点を当てた作業療法介入を行ってきた。臨床実践での経験を、理論や既存の分析方法と結びつけることにより、実践と学問の関係性を踏まえた思考過程を学生に伝える。
作業	2	後期	中枢性疾患作業療法治療学演習Ⅰ	2	60	塚越 千尋、 中井 秀昭	対象者の多くが脳血管障害である、リハビリテーション病院に勤務していた経験を生かし、医学的な知識を学ぶにとどまらず、脳血管障害の方へのコミュニケーション方法や、評価、アセスメントについてなど、実践に生かされる演習、実習を行うことができる。同様に臨床経験から、医療専門職としての態度や姿勢についても具体的な例を挙げて学生に示すことができ、興味を持たせることができる。
作業	3	前期	学童青年期作業療法学	2	30	尾藤 祥子、 高畑 脩平、 花家 竜三	地域活動の一貫として行う、教育委員会での相談事業、保健センターでの乳幼児検診、教育センターでの相談事業での経験をいかし、模擬ケースを使った演習の中で、分析や目標設定、治療プログラム立案を学ばせる際に、より具体的な内容を学生に教えることができる。学校や社会でのタイムリーな問題点について教えることができる。
作業	3	前期	心理社会作業療法学	2	30	白井 雅子	実務経験として、精神科病院や精神科デイケアで様々な疾患の方にに関わり、地域生活の継続や就労支援のための他職種や他機関との連携をとってきた。この講義では、作業療法治療計画が立案できることを目標に事例を通して授業展開している。その中で、疾患ごとの特性や他職種との連携の重要性を示し、精神障害者が地域生活や就労支援を当たり前に行えるような作業療法援助の方法を促している。
作業	3	前期	中枢性疾患作業療法学演習Ⅱ	2	30	尾藤 祥子、 塚越 千尋	対象者の多くが脳血管障害である、リハビリテーション病院に勤務していた経験を生かし、医学的な知識を学ぶにとどまらず、脳血管障害の方へのコミュニケーション方法や、評価、アセスメントについてなど、実践に生かされる演習、実習を行うことができる。同様に臨床経験から、医療専門職としての態度や姿勢についても具体的な例を挙げて学生に示すことができ、興味を持たせることができる。障害者スポーツ指導員、福祉用具プランナーとしての経験を生かし、脊髄損傷の方のアセスメントの仕方や、日常生活活動や趣味活動、社会的活動についても具体的な事例を示した講義ができる。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(作業療法学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
作業	3	前期	特定・内部疾患作業療法学	2	30	宮本 陳敏	臨床を通して内部障害、リウマチやがん等の疾患に対する作業療法を経験した。この経験を活かし、特定疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患、悪性新生物(ターミナル期)の基礎知識とリスク管理、作業療法介入について教育を行う。
作業	3	前期	高齢期作業療法学	2	30	白井 雅子、 山根 伸吾	これまでに、あらゆる多くの高齢期疾患に対する作業療法を実施した。この経験を活かし、老年期障害に対する作業療法の役割、必要とされる生活支援を実践するための知識をもとに教育する。
作業	3	前期	地域作業療法学	2	30	山根 伸吾、 高畑 脩平、 真下 いずみ	回復期リハビリテーション病棟において勤務した経験から、地域にソフトランディングするために必要なことを伝えることができる。また介護認定審査会や地域ケア会議、地域介護予防拠点整備促進事業(通いの場の立ち上げ支援)、認知症カフェに関わった経験から、地域での生活支援について伝えることができる。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(臨床工学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
臨床	1	前期	臨床工学概論 I	1	30	山崎 康祥、 菊池 瞳、 畑中 由佳	実務経験から、臨床経験に基づき実例を示しながら臨床工学業務全般における基本的な理論の展開と制御管理について講義する。
臨床	1	後期	臨床工学概論 II	1	30	菊池 瞳、 山崎 康祥、 畑中 由佳	臨床現場で臨床工学技士として5年以上の実務経験を有した教員が、その経験を活かして臨床工学技士を目指す学生に臨床工学技士の実際の現場に必要な基礎知識と経験を伝える。
臨床	2	前期	臨床医学内科総論	1	30	田浦 晶子	大学病院および一般病院で20年間以上、医師として臨床業務に携わり、保険医療委員としての実務経験も有する。教科書のみでは学ぶことが出来ないような、実際の臨床現場での様々な問題点(医療安全、カルテ記載、インフォームドコンセントなど)について、わかりやすく教示している。また、最新医療情報についても提供出来るように対応している。
臨床	2	後期	医用機器安全管理学 I	2	30	林 拓世、 菊池 瞳	臨床現場での経験を活かし、臨床現場における医療機器の安全と保守点検業務について指導する。
臨床	2	後期	腎泌尿器病態学	1	15	水谷 陽一	泌尿器科医師として、約35年の臨床経験を有している。ほとんどの学生は大学卒業後、病院で臨床工学技士として勤務している。そのため、その臨床経験から、教科書の表面的な記述の説明のみならず、臨床現場ではどのようなことが重要であり、どのようなことが知識として必要とされているのかを教授している。
臨床	2	後期	生体計測装置学 I	2	30	菊池 瞳	臨床現場で生体計測機器を中心とした5年以上の実務経験を有し、その経験を活かして臨床現場における医療計測機器について指導する。
臨床	3	前期	生体計測装置学 II	2	30	菊池 瞳	臨床現場で生体計測機器を中心とした5年以上の実務経験を有し、その経験を活かして臨床現場における医療計測機器について指導する。
臨床	3	前期	人工心肺制御学 I	2	30	山崎 康祥	国立循環器病センター(現・国立循環器病研究センター)での実務経験から、人工心肺装置の構成要素に関して、原理・構成のみならず、臨床使用の実際および臨床使用上の課題を含めて講義をおこなう。
臨床	3	前期	血液浄化療法学 I	2	30	畑中 由佳	血液浄化療法を中心とした5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして血液浄化療法の原理から基礎までを指導する。
臨床	3	前期	麻酔集中治療医学	1	30	田浦 晶子	病院勤務での実務経験に基づき、実際に臨床で経験する病態の理解と患者さんへの対応および、それに伴った医療事故につながる問題点などについて実例に基づき講義展開をおこなう。
臨床	3	後期	人工心肺制御学 II	2	30	山崎 康祥	国立循環器病センター(現・国立循環器病研究センター)での実務経験をいかし、基本操作のみならず、臨床上の課題、臨床例の提示と考察を加えて講義を展開する。
臨床	3	後期	血液浄化療法学 II	2	30	畑中 由佳	血液浄化療法を中心とした5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして血液浄化療法の基礎から応用までを指導する。
臨床	3	後期	人工心肺制御学実習	1	30	山崎 康祥、 畑中 由佳	国立循環器病センター(現・国立循環器病研究センター)での実務経験から、人工心肺装置の基本的操作および術中管理について実践を通じ学修をすすめる。また臨床で発生した事例の提示と、学外研修施設の利用により、臨床例を再現し能動的に取り組むことで、より理解しやすい教育を展開する。